

会 議 録	
会議の名称	平成27年度第1回清須市行政改革推進委員会
開催日時	平成27年11月17日(火)午後1時30分
開催場所	清須市役所本庁舎 3階 大会議室
議題	1 開会 2 あいさつ 3 議 事 (1) 集中改革プラン取組結果(平成24～26年度)について (2) 平成27年度事務事業評価(平成26年度対象)について (3) 清須市第2次総合計画に基づくマネジメントサイクルにおける外部評価のあり方について 4 その他 5 閉 会
会議資料	会議次第 委員名簿 配席図 資料1 集中改革プラン取組結果(平成24～26年度) 資料2 平成27年度事務事業評価(平成26年度対象) 資料3 清須市第2次総合計画に基づくマネジメントサイクルにおける外部評価のあり方について
公開・非公開の別 (非公開の場合はその理由)	公開
傍聴人の数 (公開した場合)	0人
出席委員	小出委員、近藤委員、佐野委員、高山委員、堤委員、前田委員、牧野委員、原田委員、山田委員
欠席委員	建部委員、山口委員
出席者(市)	加藤市長、葛谷企画部長
事務局	(企画政策課) 河口課長、忠内副主幹、岡田係長、石附主査、横井主事
会議録署名委員	堤委員、原田委員
1 開会 ●岡田係長 定刻となりましたので、ただ今から、平成27年度第1回清須市行政改革推進委員会を開催します。 皆様には大変お忙しい中、ご出席をいただきまして誠にありがとうございます。 本日の司会進行を務めさせていただく企画政策課の岡田です。宜しくお願いします。 最初に、事務局から出欠状況のご報告をさせていただきます。	

本日は、建部委員、山口委員が、所用のためご欠席でございます。
また、加藤市長でございますが、他の公務がありまして、そちらが終わり次第、会議に出席させていただきますので、ご承知おきください。
それでは、会議次第に基づきまして、進めさせていただきます。
始めに、当委員会の牧野会長より、ごあいさつをいただきます。

2 会長あいさつ

●牧野会長

改めまして、皆様こんにちは。

委員の皆様にはお忙しい中、平成27年度第1回清須市行政改革推進委員会にお集まりいただき、誠にありがとうございます。今回の議題は、予め配布してあるとおり、(1)集中改革プラン取組結果、(2)平成27年度事務事業評価、(3)清須市第2次総合計画に基づくマネジメントサイクルにおける外部評価のあり方についての3点でございます。

これらについて、委員の皆様の意見をお伺いするという形になると思います。事務局から事前に資料を送付させていただいております。タイトルも資料も多くありまして、予め目を通すのも大変だったかと思いますが、本日は事務局から説明してもらい、皆様から忌憚の無いご意見を賜りたいと思います。

なお、後ほど事務局からお話があると思いますが、我々の委員の任期は11月30日までとなっております。本日の委員会が、任期中の最後の委員会になるかと思っております。予めご承知おきください。それではどうぞ宜しくお願いいたします。

●岡田係長

ありがとうございました。

それでは、今後の議事進行につきましては、牧野会長にお願いしたいと思っております。宜しくお願いいたします。

3 議事

●牧野会長

ここからは、私の方で進めさせていただきます。

それでは、議事に入ります前に、会議録署名委員の指名をいたします。

本日の会議録署名委員は、堤委員と原田委員にお願いしたいと思っております。宜しくお願いいたします。

では、議事に移ります。

「議事(1)集中改革プランの取組結果(平成24～26年度)について」、事務局から説明をお願いします。

[事務局から説明]

資料1 集中改革プランの取組結果(平成24～26年度)

●牧野会長

ただ今、事務局から説明のありました議題につきまして、ご意見やご質問等がございましたらお受けしたいと思います。

●佐野委員
宜しいでしょうか。

●牧野会長
佐野委員、どうぞ。

●佐野委員
佐野でございます。一点ちょっとお伺いいたします。
5 ページですが、総人件費の抑制について、先ほど職員定数の削減は予定どおりできたということですが、一方で、臨時職員が前年度に比べ34人プラスになっている、この理由というのは何かあるのでしょうか。
また、来年度以降も、臨時職員は増えていくというお考えでしょうか。

●牧野会長
私もそういう疑問は、当然出ると思います。
「職員定数は減っているけど、臨時職員は増えているんじゃないか、総人件費はどうなっているんだ」という意見は前もあったと思いますけど、必ずこういう質問が出ると私も疑問に思います。事務局お願いします。

●岡田係長
ただ今のご質問に関しましては、例えば、職員も産休や育児休暇、病気休暇など様々な理由で休む職員もいます。その職員の代わりに臨時職員や嘱託職員をあてておりますので、それはその年によって、人数の変動はあると思います。

●牧野会長
総人件費の抑制ということで、超過勤務の抑制がありますよね。職員定数が減ったことによって、超過勤務手当の総額はどうなったのか。正規の職員が減ったことによって臨時職員が増えて人件費が増えている、或いは、超過勤務手当が増えているといった実態はないのか、総人件費がどういうふうに移したのか、それは、資料でデータを示してもらえばいいのではないかと思います。

●岡田係長
時間外勤務手当等々につきましては、これも人件費の給与額に入れておりまして、それが最終的に職員定数の削減の効果額として2億5千1百万円とお示しさせていただいております。この2億5千1百万円の算出方法としましては、職員の総数の給与額を職員数で割って平均の給与額を出しています。

例えば、平均給与額が約700万円とすると、前年度と比較して減った人数分を掛け合わせて効果額として、こちらに時間外勤務手当も含まれております。時間外勤務手当につきましては、職員定数を減らしたからといって業務量が増加している部署もありますので、一概に増えた、減ったとは言えません。例えば、月60時間以上勤務している職員については、人事秘書課の指導により研修等々受けさせて抑制に努めております。

●山田委員

山田でございます。

お話の流れをお聞きすると、職員定数の削減による効果2億5,100万円の中には臨時職員、嘱託職員の適切な配置ということで、増加した人数の数字の増加を見込んでいないということで宜しいでしょうか。

●岡田係長

はい、ここには含まれておりません。

●山田委員

ということは、先ほど皆さんがお話している総人件費としてはどうなっているかということの答えにはなっていないと思いますが、どうですか。

●岡田係長

臨時職員は、賃金として扱われて物件費としており、人件費とは別に積算するところです。

●山田委員

科目が違うから評価の対象としないという理屈では、「ただ付け替えているだけで、目標に達しましたよ」という結論として、みんなが考えている意味が何も無くなるんですよ。「実は、正規職員が段階的に減ったことで金額は減りましたが、それに伴って臨時職員が増加して丁度良いですよ」という話も言ってもらわないと意味が無いですよ。

●牧野会長

前の行政改革推進委員会でもここが問題になって、そこを事務局に指摘をしたと思いますけど、我々から見て改善されてないのではないかと、正規の職員は減らしたけれども、嘱託職員・臨時職員や超過勤務手当が増えたとか、結局のところ、金額的に減ったのかという疑問は、皆さん共通して持っているのではないかと思います。

●堤委員

人数だけ絞っても、お金をやらないと意味がない。

確かに、正規職員は減らしたけれど、臨時職員もボランティアじゃないですよ。そのお金は市から出ているわけですから、職員定数だけ減らしたとなると、その目標は達成していても、お金も臨時職員さんに払っているという認識じゃないかと思います。

●牧野会長

その考え方が、この委員会の共通の認識ではないかと思います。

●山田委員

効果額が、10億1700万円という数字が出ています。ということは、お金が余った、残ったということだと私は考えているのですが。

●河川課長

効果額でお示しさせていただいた内容は、これだけの金額が余りましたということです。

先ほどから議論されていることにつきましては、正直申し上げて、当局も問題意識を持っております。人に係る経費は、先ほどから言っております人件費、また臨時職員に係る賃金、これは役所の仕組み上、賃金は物件費に充てられます。人件費と賃金は、違うから検証し兼ねますというのは私どもの言い分であって、委員さんから見ればそれは違うだろうということも重々理解しております。これもシステムの話で言い訳になりますが、一通り聞いていただきたいと思っております。人件費の云々につきましては、一括的に人事秘書課が割り当て、人事権をもって各課に割り振っていくことで全庁的に行っております。

それに比べて、臨時職員は、各担当課で予算要求して査定で適否見させていただいております。となりますと、一局的にこれがどういう風にどう影響しているのかは、横断的な数値になりますので測りにくいものです。測りにくいから分からないということが、通用しないことも重々理解しております。私が、当課に来る前の財政課にいる時から、賃金を含めた人に掛かる経費の総合的な推移についてどうなのかということは、本市の内部でも疑問視されており問題意識を持っております。そういった考え方も含めて、職員を減らした結果として、賃金を含めた総人件費が減ったのかどうか、という議論もしなければならぬと理解しております。もう暫く時間をいただきたいと思っております。

もう一点、「効果額はここだけなのか」ということですが、10億何某という数字は、この項目を減らすことで、どこかが増える、また別の項目で金額的には上がったけれど、2次的、3次的に、どのように決算額が変化してどのような効果額となったのか、という議論につきましても内部で話が出ております。

この効果額を出させていただいた前提ですが、あくまでも決算比で見えております。それは何故かという、決算額の比較で見るというのは、一番簡易的な方法です。

例えば、具体的な例を一つ出させていただきますと、この中に医療費の市単独分を廃止したという事業があります。こちらの効果額は入っておりません。何故かという、所得制限を設けて一つの事業を廃止しました。廃止すると、当然効果額は出ます。しかしながら、年々対象者は増えるため、医療費は増加しております。制度改正により、金額を減らしても対象者が増えるといった結果、金額は変動しない若しくは増えるという結果となる項目もあります。そういった項目につきましては、制度を変えることによっていくら影響が出たのかを精査して、実際の効果額がこれだけだという方法もあります。その方法につきましても、内部で調整させていただきまして、今回は決算比における効果額の算定をするという前提で算出しております。先ほど申しました、2次的、3次的な効果額を加味して算出したものではないことをご理解いただきたいと思います。

●牧野会長

まだ、いろいろとご意見もあることと思いますが、時間の関係もございます。この件につきましては、一層改善を求めるということで終わらせていただきたいと思ひます。

次に、「(2) 平成27年度事務事業評価(平成26年度対象)について」を事務局から説明をお願いします。

[事務局説明]

資料2 平成27年度事務事業評価(平成26年度対象)

●牧野会長

ありがとうございました。

ただ今の説明に関しまして、ご意見がありましたらお願いします。

●佐野委員

佐野でございます。

昨年、その前と行政改革推進委員会で事業評価をさせていただいて、今回見せていただいて、非常に分かりづらひと感じました。

例えば、進捗度が100パーセントなら良いのか、その指標と目標の立て方についても、それが予算にどう結びつくのかという整合性などです。

何点かお伺ひしたいのですが、13ページの防災行政課が市内の救急出動の件数が26年度から27年度に目標が上がってますね。救急車の出動を上げることが目的ですか、上げるものですか。私は、極力減らそうというのが正しいと思ひます。16ページにごみの関係が出てきます。一人当たりの家庭系廃棄物排出量の目標が199kg、実績が198kgであれば、進捗度が99.5%というのはおかしいのではないか。それと似たことが、18ページの汚泥再生処理センターへのし尿・汚泥投入量についても、目標値は33,000kg、実績が約31,000kgで、進捗度は95.1%だったり、し尿処理費の86.3%っていうのもどうなのかなと思ひます。

それともう一つ、61ページに緑のカーテン設置費は、金額的に大したことではないのですが、温室効果ガスの総排出量の目標と実績を見ると、実績が低いから進捗度が73.8%とありますが、総排出量を多くするのか、若しくは削減するのか、これだけ削減するという目標に対して実績がこれだけだったから進捗度は73.8%となっています。だから、この指標そのものがどうなのかな、というところがあります。

それから、小さなことですが、88ページに500万円近く使っている文化財保護事業費の文化財講座があります。延べ参加者の目標が200名、実績が171名、それを翌年度には目標値を150名に減らして見込みを150名として、進捗度が100%というのはどうなのかなと思ひます。89ページですが、スポーツ課が、体育振興費と清須ウォークの2回分を掲載して、約500万円ずつ使っております。これは、スポーツ課が、緊急性として「現時点では必ずしも実施しなくても良い事業」という風に捉えています。しかし、今後の事業の方向性は、「現状を維持して事業実施」となっています。

全部一つひとつ見ることはできませんが、こういう評価の仕方と、指標

目標自体が参加人数や開催回数で進捗度の評価をされていますが、それと予算との整合性はどうかと、そこが非常に分かりづらいつ感じております。

●牧野会長

佐野委員からは事業の進捗度を測るものとして目標値と実績値の設定の仕方が、本来のそれを測る指標となっているか、私も以前に放置自転車の問題を言ったことがあると思います。たくさん片付けて、前に500台だったものを600台片付けましたとして、それが新たな目標になって、放置自転車問題を達成したということでは意味が無いと言いました。「いかに放置自転車を減らすか」ということが目標で、そういう目標の設定に問題があると思います。

先ほど、佐野委員は、緊急性の評価と事業の方向性との整合性が無いと、私もスポーツ課の部分は、そのように思っております。その他にも、市民ニーズ、市の関与、事業の効率性など、一つひとつ見ていくと、本当にこの評価で良いのか非常に疑問があります。そこまで今日踏み込むのか、総括的に評価の枠組みを議論するという形で、行政改革推進委員で外部評価を受けましたということにするのか、或いは、これは取りまとめたことを報告しましたので外部評価を受けておりません、ということにするのか疑問があります。

事務局から、説明をお願いします。

●石附主査

ありがとうございます。

私から、佐野委員と牧野会長からのご意見を踏まえてお答えさせていただきます。

佐野委員から数点いただきましたが、まず総括的な考え方をご説明いたします。

まず、事業につきましては、複数ご指摘をいただきましたが、まず今回の取組みの趣旨としましては、評価の単位は、平成26年度決算の主要成果報告書に記載されている事業名と評価単位を合わせております。そちらの行政評価を行うことによって、同じ単位、予算の単位として、平成28年度の予算編成に繋げていくということで目標としております。緊急性が低い事業で、今後の事業の方向性として「現状維持」に至ったところは、事務事業評価の記載が全てでは無いところではありますが、予算査定の中で、緊急性が低いということであれば、実施の必要はどうかということが議論されていくと思います。所管課が考える緊急性としては、ここに記載されているとおりでと理解しております。

●河口課長

補足をさせていただきます。

今回、こちらで実施させていただいた事務事業評価ですが、佐野委員が言われましたように、先回の方法と180度変わっております。

この理由としましては、担当から説明したとおり、総合計画と予算とのリンクを付けたいという思いの中、この方法を取らせていただいた試行期

間と位置付けております。この完成形につきましては、29年度から第2次総合計画が開始されて、これの外部評価をどのように行っていくのかということで、30年度に29年度の決算について、その評価から何かの形で事務事業評価を行っていきたいと考えております。こういった形で行ったらどうでしょうか、という提案も兼ねて、本日、提出させていただいております。

また、佐野委員が、具体的に数値的なことを言われました。

前段で言われた、本来減らすものが減っていて90何%というのはどうなんだと、これはごもつともです。ある項目については、団体数ですし、ある項目については実施数ですし、似たような事業についても違う指数の取り方になっているということも、ごもつともだと思います。指導不足もございますが、私どもがこういう風に行っていきたいとあって、所管課に作らせました。全庁的に画一的に同じ指標を持ってこれを作っているのかというと、若干疑問があるところも否めません。そういったところも踏まえまして、第2次総合計画の検証の一つとして位置付けて、まずは第一歩としてこういう形で進めていきたいという思いです。それについて、いろいろなご意見があると思います。私どもが気付いていないところ、気付いていても見切り発車的に進めてみようというところがあると思います。

様々な意見を聞きつつ、精度を高めて29年度を迎えたいと考えております。佐野委員が言われたのもご意見ですし、牧野会長が言われたのもご意見です。皆様お気づきの点がありましたら、そういったものを踏まえまして、精度を高めたいということが本意でございます。ご理解いただきたいと思っております。

●堤委員

89ページのスポーツ課の中で、市民ニーズを「エ」として、把握していないとあります。体育振興と清須ウォークですが、この市民ニーズを把握していないというのはどういうことですか。

●河口課長

おそらくですけれども、所管課のその設問に対する答えの本意は、市民ニーズを本当に把握していないということではなくて、清須ウォークは、市民ニーズがあって行われている事業で、当然、市がお金を使って行っております。市民ニーズがあつてのことですので、それを把握していないと取つたのは、事業に参加している人や参加していない人に、「この事業はどう思いますか」というような踏み込んだアンケートを行っていないので、実質ニーズを把握していないと素直にチェックをしたと思います。そういったところも、先ほど申し上げたように、内部で意識統一がされていないところです。堤委員が言われましたように、「おかしいよ」というところがありましたら、お知らせいただきたいと思っております。

●牧野会長

「おかしいよ」というところは、非常に多くありまして、少しの間では見ることはできません。昨日の昼頃から始めて、朝の4時まで掛かりました。先ほど、市民ニーズの話がありましたが、それを「把握していませ

ん」という評価が、90ページの体育協会補助金やレクリエーション協会補助金ですとか、総合型地域スポーツクラブ補助金でなさっていますが、昨年までのものを見ると、市民ニーズは「横ばい」と書いてあります。今まで横ばいとしていたものが、27年度の評価シートになると、市民ニーズを「把握していない」という記述になるのは、ちょっと分からないです。従来であれば、おかしいところがあると、担当課への説明を求めて、担当課から一覧表として回答を貰って、行政改革推進委員会で外部評価したという形にしていました。ここで、おかしいところがたくさんあって、それをチェックせずに「これで承認しました」と外部評価を行ったということで、一人歩きすると非常にまずいと思います。

問題点を個々に出してくれと言われたので、明らかにおかしいところを指摘します。5ページの2番目に、危機管理体制強化費があると思いますが、市民ニーズを把握していない「エ」と書いてあります。どう考えても、この評価は「ア」として、市民ニーズを把握しなくても実施する必要があるということで、危機管理を強化するのは誰が考えても必要だと思います。

市民ニーズ、市の関与、緊急性、事業の効率性に関しても、そういう必要性と今後の事業の方向性との整合性が無いものがたくさんあります。意見書を出して担当部署から回答を貰うと、外部評価をしたということになりますが、一つずつ行っていたら大変な時間が掛かって終わらないです。

●佐野委員

何故この話をしたかというのと、次の議事にも関わることですけれども、要するに、29年度から予算編成と連動した事務事業評価をしたいということですね。

それについては、事業の進捗度が人数であったり回数であったり、そういう指標のあり方で良いのかどうかということです。予算に連動したことも一つの査定基準ではあるとは思いますが、多く出るのか、少なく出るのかで、予算が掛かるとか掛からないということもあると思います。それも一つだと思いますが、全体を見てみると、進捗度を見る目標が人数だったり回数だったり、それと予算と評価がどう整合性を持つのが分からないです。

例えば、お祭りのところが84ページにあります。

これ全部人数ですが、予算は毎年これだけと決めたもので、おそらくそれぞれの地域がお祭りをされています。4,000人の目標が3,000人になったところで問題は無いですね。予算はそのまま使うわけですので。それよりも、予算の使い方の中で、削減できるものが有るのか無いのか、努力できるものが有るのか無いのか、そういうことであれば問題は無いと思います。

個々の目標値と実績値を見ると、何人参加したから100%、参加しなかったから何%、これと予算をどう整合性を持って来年度以降行っていくのか、その辺りが疑問だったので申し上げました。

●石附主査

ありがとうございます。

今、佐野委員からご指摘のあった件ですけれども、次の議題でも出てくると思いますが、次の総合計画の中で考えているところは、84ページのお祭りの事業、こちらの「歴史・伝統・文化・教育を大切に作るまちづくり」、その中で文化芸術活動の振興という取組みを掲げております。文化芸術活動の振興という取組みに対して、成果目標として達成度指標を設定することを想定しています。これらの取組みを行うことで、その目標に向かって、文化芸術活動の振興という取組みにおけるあるべき姿としての目標を達成しているかどうかを測っていこうと考えております。

その中で、事務事業評価は、単年度の予算で動いていくことになる形になります。総合計画の前期という部分では、3年から5年程度想定しております。その期間のうち、1年間でお金を使ったことが、この上位の目的とする部分とどのように繋がっているかを評価していこうと思っております。事務事業評価の指標が、祭りの来場者数で測ることが適切かどうかにつきましては、議論すべきところではありますが、毎年度、上位の目標とする指標を目指して取組みを進めていくイメージとしては、そのように考えております。

もう一つ付け加えさせていただくと、先ほどから文化財保護講座の参加者数が適切かどうかということもありますが、文化芸術活動の振興として、かなり大きな括りになってしまいます。ですので、施策に対する満足度などで達成度を測ることになると思いますが、その下に位置付けられる事業の進捗度としては、アウトプットと言いますか、何人参加したのかということに指標を置かざるを得ない状況になります。資格を取る人が何人ということまで指標を置くのかということも考えられますが、事業の単位はあまり大きくないので、今後、所管課と大きな目標と小さな目標というところで調整が必要と考えております。

●牧野会長

近藤委員、どうぞ。

●近藤委員

61ページの温室効果ガスの総排出量ですが、これは、1年に清須市から出る温室効果ガスの総排出量なのか、温室効果ガスの削減量が目標値と実績値なのかどちらですかね。削減量が、これだけ削減できたという話ですか。

●石附主査

61ページの緑のカーテン設置費の温室効果ガスの総排出量ですが、こちらに記載のとおりといいますか、総排出量の目標値と実績値の見込みです。

●近藤委員

総排出量の目標値が947, 981kgですよね。けれども、実際には699, 442kgしか出ていないということは、翌年ならば、目標値をもっと下げるべきですよね。なのに、他を見ても全部コピペですよね。いくら減っていても、目標値が良い方向に働いているのが、更に良い方向に働くよう目標値を変えるべきですけど、似たような数字が左から右にコピペされているだけで、何の意味があるのかなと思います。

例えば、清須市として住宅用太陽光発電システムの設置も進めていきたいということですよ。

125件の目標に対して131件という市民のニーズがあったにも関わらず、翌年度は125件の設定で見込み値が125件となっていて、せっかく実績が上がっているならもっと高い目標を設定するべきかなと考えます。そういったものが、この表から全然読み取れることができません。似たような数字や目標値が、26・27・28年度と並んでいるので、その辺りはどうなのかなと思いました。

●石附主査

近藤委員が仰られたとおり、温室効果ガスの総排出量が、実績値で約70万kgということであれば、目標値はそこを踏まえての数値になると、当然思うところがございます。その実績値があって、27年度の見込みが同程度であれば、26年度決算で70万2千円という額によって、目標値がその程度で良いのかということもあります。ここに事業費を付けて実施できるのか、目標値の設定が妥当であるのか、そもそも、そのところが今回28年度の予算編成に向けて検討することと思っております。それを踏まえて、所管課には予算編成を行って欲しいと考えております。

●河口課長

補足説明をさせていただきます。

近藤委員のご指摘で、緑のカーテンの費用につきましては、近藤委員の仰るとおりです。

これは26年度の目標値と実績値があって、27年度については、その実績値が起点となって、そのようになるというのはごもっともな話です。

その下の設置補助金の関係も、近藤委員の仰るとおりですが、ここで一つご理解いただきたいのは、住宅用太陽光発電システム設置補助金と言いますのは、住宅用太陽光発電システムを設置した方に対して市から補助する事業です。それで、国の補助金ありきで、その補助金の配当をもって本市の設置数を決めているというのが現状です。ですので、26年度に125件を目標として実績で131件設置しましたとあって、素直に考えれば、131件の需要があったのだから、翌年度は130数件、140件を目標にすべきではないかというのはそのとおりです。ですけれども、事務的なこともございまして、目標値を設定できないという事情もあることも理解していただきたいと思えます。

●堤委員

ここでは、そういう説明できるけれど、今度は公表して見てもらう時に、また同じ説明をしないといけないですよ。今のような説明を言わないと、納得できないと思えますよ。

●河口課長

堤委員が言われるように、これはホームページに公表されますので、それを見ただけの人は今の説明は通じませんので、本来の131件を起点として次の目標を決めるべきところではあります。

この評価書の全体的な作成に当たっては、そういった注釈が必要なのかということも含めて、今後、検討していきたいと思えます。

●牧野会長

山田委員、どうぞ。

●山田委員

このところもそうなんですけど、他の部署の方たちが、数字をそういう風に考えて書かれているのか、その認識度を疑ってしまうのですよ。

この住宅用太陽光発電システム設置補助金については、しっかりと考えられたと思います。25年度の決算では、国が出している額142万1千円で、本市は851万6千円、125件の予定が実際は131件と増えたので、清須市の持ち出しは多かったということですよ。26年度は、国が169万2千円と増やしてくれたけれど、目標値を125件にして清須市も持ち出しを抑えたという形で予算は設定されているので、考えてこの数字になったと思います。

でも、他の部局の数字を見ると、そんな風に考えているのかということをお皆さん仰っているのですよ、一つ一つのことについてです。

皆さん、活字になったら怖いということを知っていますよね。安易に書かれていることが、ホームページに掲載された段階で公的なものになるのですから、それをどこまで考えているのかということです。

この段階で、私たちがこれを承認する話になると、隅々まで見たわけでしょということですから、「それはちょっと困るよね」というのが皆さんのご意見です。

●牧野会長

高山委員、どうぞ。

●高山委員

高山でございます。

bのページを見ますと、「今後の事業の方向性とその理由等」というのは、事業進捗度・必要性・効率性を踏まえて至っているはずなんですよ。

例えば、27ページの一番上、子育て支援課の保育園管理費を見ますと、決算額が減っており、目標値も変わっていない、なのに「事業等を拡充して事業を実施する」となっています。何故かということ、保育園を一つ造るからということですよ。

そうすると、他の項目も皆さんからご意見が出ていますけど、最終的に右の欄に到達するために、左側の欄の作業をして保育園を一つ建てるという結論となると、進捗度に記載してある保育園の修繕どころじゃないですよ。

そもそも、左側の議論をする必要が全く無いですよ。このために左側の評価を一生懸命行うのは、非常に無駄な作業のような気がします。評価シート自体、根本的に見直した方が良いのかなというところですよ。

また、全然関係ありませんが、101ページに当委員会の目標値が今年度3回開催で、見込み値が1回開催ということですが、ご説明いただいた方が良いかなと思います。

●牧野会長

これについては、総合計画の議論と合わせてという考え方もあるかもしれませんが、総合計画の進捗管理として内部評価や外部評価をつなげていくのか、役立てていくかという議論があるわけですから、次の委員が選ばれたら、その人たちは、あと1回や2回を27年度の中で行えば良いのではないかと思います。

これについて、事務局どのようにお考えですか。

●石附主査

行政改革推進委員会の開催回数ですが、見込み値1回とさせてもらっているのは、会長仰られるとおり、次期総合計画に合わせて、行政改革大綱に代わるものを策定していけないといけないという認識をしております。

その中で、総合計画は、今年度に基本構想、基本理念と目指すべき将来像などを固めていくことを想定しているところでございます。そちらと同時並行で、行政改革推進委員会に諮って、行政改革大綱に代わる内容の策定作業を進めるか、ある程度、叩き台を作った上で、28年度から行政改革推進委員会委員の皆様にご議論をいただく形を取るのか、そこを決め兼ねているところでございます。もう少し、総合計画の姿が見えてきた時点で、今年度中に議論ができるような形にするのか、来年度にするのか決めていきたいと考えております。

●牧野会長

2の議題について、かなり意見がいろいろ出て大幅に時間が超過しております。

事務事業評価は、従来は部署ごとに並べられていましたが、今回の場合は総合計画に対応しています。配列の仕方自体は、総合計画進捗管理を行っていく意味では改善があったと思います。ただし、内容は、企画政策課の意図が各部署に上手く伝わってなくて、それぞれの基準で評価しているんじゃないかと思います。目標値の設定ですとか、必要性・効率性・方向性に関して、この事務事業評価シートを見ると、記述がこのままで良いものかどうかと思うものが非常にたくさんあります。

行政改革推進委員会で、「具体的にこういう指摘がありましたよ」と一覧表を付してあれば、我々は各部署の内部評価に対して外部評価を行ったことになると思いますけれども、これがこのまま公表されるのは、ちょっと問題があるのではないのかなという気がいたします。

これについては、どうでしょうか。

●河口課長

冒頭に申しましたように、この事務事業評価は、あくまでも試行期間と考えております。

各委員より、いろいろなご意見をいただきました。

山田委員が言われましたように、「活字にしてホームページに出ると本当に怖い、各所管課が画一的・統一的な見解を持っていない、持ってないからこのようになりました。」と、活字になって公表した時に、それをどう理解されるのかということは、本当に怖いということは理解します。

また、高山委員が言われましたように、一番右の列を出すかゆえの左の列であって、こういったものを行う必要があるのか、載せる必要があるのかというご意見をいただきました。

今回、会長が仰られる中で、行政改革推進委員会における平成26年度実績の外部評価として、項目ごとに一つ一つを了承することはどうなのかということにつきましては、「今回はあくまでも試行期間ですので、この方法についてどうですか」という問いをさせていただいて、それについて皆様からいろいろなご意見をいただいたというように形にさせていただけたらどうかと思います。

それで、個々一つひとつ、1事業ごとにそれぞれの評価項目のA・I・U・Eとあ

りますが、「これの適宜についてどうだ」というご議論ではなくて、この事務事業評価の方法、目標値の設定がどうなのかなど、いろいろなご意見をいただきました。もちろん、それをまとめさせていただき、それを今後の27・28年度決算で熟度を高めた上で事業を展開していきたいという第1歩ということで、こちらの委員会では、この全体像を最初にお示しさせていただき、いろいろなご意見をいただいたというまとめでいかがでしょうか。

●牧野会長

この評価に基づいて、外部評価を行ったというか形にしてもらったら困るというのが私の意見ですので、課長が言われたような取り扱いにさせていただいて宜しいでしょうか。

[異議なしの声]

では、そういう形で2の議題は終了させていただきます。

●河口課長

もう1点、すみません。

今回ですけれど、皆さんからいろいろとご意見を頂戴しました。

見ていただく資料を配布して、会長が言われたように期間も短かったです。そういった意味で、今回の会議の時間も短いです。

私どもとしましては、数多く、細かいことも皆さんのご意見を頂戴したいと思っているのが本音でございます。

そういったご意見を参考に、今後、こちらを修正していきたいと思っております。

もし宜しければ、期限は特に設けませんので、今日お帰りになってでも見ていただいて、本当に細かいことでも結構ですので、「これおかしいよ、こういう考え方もあるのではないか」というご意見を一つでも頂戴したいと思っております。宜しくご協力をお願いしたいと思います。

●牧野会長

次に、「(3) 清須市第2次総合計画に基づくマネジメントサイクルにおける外部評価のあり方について」を事務局から説明をお願いします。

[事務局説明]

資料3 清須市第2次総合計画に基づくマネジメントサイクルにおける外部評価のあり方について

●牧野会長

ただ今、事務局から説明させていただいたことについて、ご質問・ご意見等ございましたらお願いします。

●佐野委員

確認ですが、今回の議題が29年度以降の外部評価のあり方ですね。この文章から見ると、基本計画のマネジメントサイクルで達成度指標に基づく政策評価を一定間隔で実施する、という項目がありますので、これが外

部評価の一つ、それで、もう一つ言うなら、市民アンケートを実施して外部の意見を聞くという、こういうことでしょうか。

●岡田係長

そうですね、仰られたとおり外部評価の一つとしては政策評価もですし、市民アンケートというものもあります。

これまで委員の皆様には、外部からの意見聴取者としてご参画いただいたのですが、これからの外部評価のあり方として、そういった形も良いですし、例えば、有識者の方に見てもらおうということですか、いろいろな意見があると思います。そこを今後どのように行ったら良いのか試行錯誤しておりますので、ご意見を頂戴したいと思います。

●佐野委員

先ほど聞いたのは、行革委員が行うということではなく、有識者の意見もいただくということで、大変私にはありがたいことだと思っております。せっかく、総合計画審議会では有識者が入られてご意見をいただいているようなので、是非ともその方々に評価をいただいたり、力をいただくというのはありがたいと思います。

●牧野会長

質問したいのですが、マネジメントサイクルのイメージがありますが、平成29年度には予算編成・予算執行して、事務事業評価を行って、改善します。それを次年度の予算編成に活かしていくということになっています。

一方で、事務事業評価は、決算時に実施するとなっています。決算時に事務事業評価を実施したら、今のように、29年度決算が終わった時に事務事業評価を行うということで、それは30年度予算編成には活きずに、31年度にしか使えないわけです。

本文の(3)予算編成と連動した事務事業評価と実施とありますが、どの時点で自己評価を行うのか、予算執行途中の年度途中に行うのか、それとも上に書いてあるように決算時に行うのか、決算時に行うのであればPDCAサイクルは確立できません。ちょっとこれ理解できないと思いましたので、教えていただけますか。

●石附主査

牧野会長の仰られるとおりで、確かに決算を基に評価すると、その見直し結果の反映が決算年度プラス2になるわけです。現在執行している予算には、見直しが活かされないんじゃないかという質問だとの理解で宜しいでしょうか。

●牧野会長

はい。

●石附主査

行政評価というものが、実施後評価という方法もありますし、期中評価、

実施中評価という方法も当然あるかと思えます。

清須市では、これまで全て事後評価ということで実施してきていますが、期中評価ですとか実施前評価ということも方法としては考えられますので、そこがサイクルの中でどの評価が適切なのか、今後考えていかなければいけないことは認識しております。

●牧野会長

その説明と資料のピラミッドのところ、決算時に事務事業評価を実施すると明記してあります。これと整合性を持っていない気がしますし、期中評価、年度途中の評価が、ここに書いていないですよ。次の年度の予算編成に活かすということもあるわけですけど、このピラミッドの実施計画に書いてある「決算時に事務事業評価を実施」ということは、確定したものなのか、書いてあることによって意味が分からなくなります。これは、どういうことでしょうか。

●石附主査

今回実施してイメージしている行政評価について、会長仰られたように、それでは当該年度の執行に見直し結果を反映できないんじゃないかということは当然ありますので、検討していきたいと考えております。

●山田委員

この表にある予算の事務事業年度の決算時に、事務事業評価を実施することは当然実施しなければいけないことですよね。スタート時の年度をどうするかということですよ。29年度スタートして、最初の間で評価を行うのか、それさえできれば、翌年30年度になった時に29年度の決算時の事務事業評価ができますので、それと30年度の間と1セットの両方でできれば、予算をそれに向けて変更、改革することは可能ですよね。一手目を遅らせてしまって、例えば、29年度決算を30年度中に評価して31年度予算に乗せたとしても、30年度事業は進んでいますので、またそれもおかしな話になります。

「後手に回る」ので、初年度どうするかをはっきりさせないと、後でどうしましょうかとなってしまいます。そこについては、初年度には中間で行うべきことにはなるのではないかと思います。

●石附主査

ありがとうございました。

山田委員からのご指摘ですが、確かに仰るとおりで、起点が総合計画の開始以降であれば、それに伴って遅れていくというところですよ。

今回、事務事業評価をこのような形とさせてもらってございまして、平成29年度からの次期総合計画を見据えて、平成28年度予算が出来上がった段階で、この事務事業評価シートに対応する28年度当初予算ベースの実施計画の作成を考えていきたいと思っております。

そして、28年度の決算が終わった29年度の夏に評価を行った段階で、次の平成30年度予算に活かしていくというサイクルを作っていきたいと考えております。

●牧野会長

マネジメントサイクルにおける外部評価の方法については、基本的に次期の行政改革推進委員会で検討することになると思いますが、何か他にご意見などありますでしょうか。

●近藤委員

第1回総合計画審議会で了承されたことですよね。

了承されたことを変更が効くのでしょうか。決算時に実施というのは、平成27年9月29日の第1回総合計画審議会に了承を得たことであって、私たち委員が、ああだこうだ言って変更できるものなのでしょうか。

●石附主査

近藤委員、ありがとうございます。

説明が言葉足らずで申し訳ありませんが、9月29日の総合計画審議会では、第2次総合計画を行政運営マネジメントの基軸として実効性のある計画とするために、基本構想・基本計画・実施計画という3層構造としてマネジメントサイクルを作っていきたいということについてはご了承いただいております。しかしながら、先ほど申し上げました実施計画を28年度当初予算のベースで仮に作って、このようなサイクルを作っていきたいということは、まだ総合計画審議会にはお示ししてない事項になっております。

ですので、当委員会におきましては、外部評価と言いますか、セルフチェックとしての所管課で事務事業評価を行っていることについて、今後どういう視点で外からの評価というものを入れていくのが望ましい形なのかをご意見いただきたいと考えております。

4 その他

●牧野会長

他にご意見も無いようです。

以上で、本日予定されていた議事は全て終了いたしました。

折角の機会でもありますので、何かございましたら、お願いいたします。

[特になし]

ご質疑も無いようですので、これをもちまして議事を終了いたします。

皆様の協力のおかげをもちまして、この2年間、何とか会長の職責を全うすることができました。皆様には本当に厚く感謝申し上げます。ありがとうございました。

事務局へお返しします。

●岡田係長

本日は、ありがとうございます。

お手元にお配りしました、資料の説明をいたします。

本市のふるさと納税のご案内でございます。

11月1日から、本市におきましても、ふるさと納税でご寄付をいただいた市外の方に対して、返礼品の提供を始めさせていただきました。お開きいただきまして右側のページでございますが、7つの事業者様からこれらの商品をご提供いただいております。集中改革プランの改訂版の歳入の確保として、ふるさと納税制度の拡充を掲げて本年度から始めていきたいという計画もありまして開始しました。

それではここで、加藤市長より、あいさつを申し上げます。

●加藤市長

改めまして、皆様こんにちは。

今日は皆様お忙しい中、行政改革推進委員会ということでご出席いただきました。

皆様方には、こうした行政改革のことはもちろんでございますが、市政の各方面でいろいろとご協力いただいております、この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

また、ただ今は、大変長時間に渡りましてご熱心にご審議をいただきまして誠にありがとうございます。

ご案内のとおり、この7月7日には市制施行10周年を迎えました。そして、これをひとつの節目といたしまして、10月の12日に、これまでのまちづくりを市民の皆様と振り返って、そしてまたこれを機に本市の明るい未来につないでいこうと、新たにスタートしていこうと、記念式典を開催させていただいたところでございます。

一つの節目を市民の皆様とともに祝うことができたのも、ひとえに皆様方を始め、市民の皆様方が本市のまちづくりの目標とする「安心・安全そして快適で元気な清須」という実現のために、それぞれの立場や分野で知恵を出していただいて、市民協働を行っていただいた、支えていただいた賜物であると思っております。改めて深く感謝申し上げます。

今後につきましても、これまでの実績や成果を活かし、更なる市の発展と飛躍に全力で努めていきたいと考えております。

今年は、忌まわしい東海豪雨15年ということで、ただ過去の記憶として扱うのではなく、経験を活かして排水ポンプ場の設置や総合治水対策に取り組んでいかなければいけないと思っております。

また、全国的には、日本が人口減少社会に既に入ったと叫ばれております。お陰さまで、本市は、現在少しづつ人口が伸びております。

しかし、女性の方が生む子どもさんの数は、清須市でも約1.6人となっております。この先、10年20年後には、減少傾向になってくるということでございます。そういうことに対応していくためには、更なる住み良さ、或いは市の個性を活かしていかなければならないということです。現在、子育て関係では、西枇杷島地区の温水プールの跡地に新保育園を建てておりますし、新川児童館も庁舎増築と併せて立替を行っております。28年4月には供用開始を行う予定となっておりますし、春日地区には民間でございますが、幼保一元化の認定子ども園を始めるということで、子育てをしやすいまちづくりということで進めております。

もう一つは、大名古屋市の近隣市として都市の役割を果たしていくという面でございます。当地域は、JRや名鉄の駅を全部含めると、10箇所

ございます。こういった特性を活かしていかなければいけないということで、現在、名鉄新清洲駅前とJRの清洲駅前区画整理組合が設立されまして、整理が進んでおります。駅前の環境が、より利便性のある駅前になると思っております。清須市に住んでいただきたい、清須市で企業を起こしていきたいとか、清須市を訪れていただきたい、こういう街を目指していきたいと考えております。

合併して10年、今までいろいろな援助があったわけですが、普通交付税が低減されてくるということで、歳入が減少してまいります。国の支援が減ってくるということと、医療・介護・福祉といった面では歳出が増えてきているという状況でございます。もっと財政的には厳しくなるという中で、本日ご意見いただいたことを踏まえて、行政改革に取り組んでいきたいと思っております。

皆様方には、これまでいろいろとご尽力いただき、心より感謝申し上げます。今後も益々ご健勝で、ご活躍賜りますことを心からお願い申し上げます。御礼の言葉と本日のあいさつに代えさせていただきます。ありがとうございました。

5 閉会

●岡田係長

ありがとうございました。

本日、予定されておりました議事は、全て終了いたしました。

来年度の当委員会の予定としましては、次の行政改革大綱の策定作業を行ってまいります。新しい大綱は、現在の大綱における課題等を踏まえて、また、第2次総合計画との整合を図りながら策定したいと考えております。

皆さま方の任期は、11月30日までとなっております。新しい委員につきましても、事務局から改めてお願いさせていただくことといたします。宜しくお願いします。

事務局からは、以上でございます。

これをもちまして、平成27年度第1回清須市行政改革推進委員会を終了いたします。2年間、大変お疲れ様でした。ありがとうございました。

(午後3時25分 閉会)

問い合わせ先

企画部 企画政策課

052-400-2911

会議の経過を記載して、その相違ないことを証するためここに署名する。

会 長 牧野 香三

署名委員 堤 忠正

署名委員 原田 晴美